令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【与野八幡小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	学校全体を通し、「知識・技能」について、高い傾向にある。一方、学年間における差や、学習した内容の意味についての理解に課題が見られる部分もある。そこで、学習を通し、学習した内容の結果のみを定着させるのではなく、その過程やその意味について児童が、考えながら「知識・技能」を獲得していけるよう、学習を展開していく。
思考・判断・表現	学校全体を通し、「思考・判断・表現」について、高い傾向にある。一方、問題場面の把握や根拠を明確にした考えをもつことに対し、課題が見られる。そこで、今後も、ICTなどの活用を通して、児童間での考え方の共有や説明場面などを設定し、さらに児童一人ひとりがより多角的に思考し、学習を深めていけるよう、授業展開を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	学習に肯定的に取り組むことに対し、学校全体で課題が見られる。今後は、学習に進んで取り組むことができるよう、学校課題研修を通して、主体的に学習に取り組み、自分の考えを進んで表現する児童の育成に努めていく。

① 目 標・策

	目 標		策
知識・技能	令和4年度全国学力学習状況調査及び令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果を踏まえて、令和5年度算数の「知識・技能」において、全国平均及び市平均を上回る。	⇒	「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の実践に取り組む。また、ドリルパーク、スタディサプリを活用し、反復・習熟の学習に取り組み、個に応じた課題の解決と、「知識・技能」の定着を図る。
思考・判断・表現	令和4年度全国学力学習状況調査及び令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果を踏まえて、令和5年度算数の「思考・判断・表現」において、全国平均及び市平均を上回る。 令和5年度全国学力・学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」において全国平均を上回る。	⇒	「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の実践に取り組む。授業内における振り返りの実践を行い、児童が客観的に自身を振り返ることで、「思考・判断・表現」の資質・能力の向上を図る。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向かって、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。学校評価アンケートにおける「進んで学習に取り組みましたか」の肯定的案回答の割合を90%以上にする。	⇒	授業内における、振り返りの実践を行い、児童の実態を図る。学校課題研究を中心とした授業改善を図り、児童一人ひとりが自律的・能動的に学習に取り組めるよう授業を行う。

⑤ 目 標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査の算数の「知識・技能」において全国平均と比較し、＋5．4ptとなった。 さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」において、市平均と比較し、3学年以上の学年において、平均5pt市平均を上回ることができた。	A
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」において全国平均と比較し、＋5．8ptとなった。 さいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」において、市平均と比較し、3学年以上の学年において、平均5pt市平均を上回ることができた。	A
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向かって、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、86．9%となった。 学校評価アンケートにおける「進んで学習に取り組みましたか」の肯定的な回答の割合は、91．8%となった。	B

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（概ね達成） C 6割未満（あと一歩）

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語－7．7pt、数学＋0．5ptであった。国語の学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で、正しく使うことができるかどうかをみる問題で、同じ読み方の熟語と間違っている児童が多く見られた。
思考・判断・表現	算数の「データの活用」領域において課題が見られた。示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題の無解答率が高いことから、条件に合った複数のグラフの読み取り方を理解していないことが考えられる。複数のデータの読み取り方を学ぶ活動を重視していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は86．9%で目標値に達しなかった。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

小3	算数においては、全体が市平均正答率を3．9pt上回った。観点別に見ても、「知識・技能」は4pt、「思考・判断・表現」は4pt上回っている。学習指導要領の領域別に見ると、特に「数と計算」が5．6ptと高く上回っている。 国語においては、1．7ptと市平均正答率を上回っているが、学習指導要領の領域を見ると、「我が国の言語文化に関する事項」と「話すこと・聞くこと」の正答率が低くなっている。無解答率は低く、積極的に取り組むことができた。	小4	算数においては、全体が市平均正答率を6．8pt上回った。観点別に見ても、「知識・技能」は7，13pt、「思考・判断・表現」は6．4pt上回っている。学習指導要領の領域別に見ると、特に「数と計算」が7．9ptと高く上回っている。 国語においても、4．7ptと市平均正答率を上回っており、学習指導要領の領域を見ると、特に「我が国の言語文化に関する事項」9．2ptと「話すこと・聞くこと」7．1ptの上回っていた。無解答率は低く、積極的に取り組むことができた。
小5	算数は、全体が市平均正答率を6．3pt上回った学習指導要領の領域別に見ると、特に「図形」が9．8ptと高く上回っている。国語は、6．8ptと市平均正答率を上回っており、学習指導要領の領域を見ると、「話すこと・聞くこと」の正答率が10．4pt高くなっている。社会は、市平均正答率を6．8pt上回っており、観点別でもそれぞれ6．2pt以上だった。理科は、市平均正答率は6．2pt上回り、、特に学習指導要領の領域『粒子』を柱とする領域は10．8pt上回った。無解答率は低く、積極的に取り組むことができた。	小6	算数は、全体が市平均正答率を6．2pt上回った学習指導要領の領域別に見ると、特に「変化と関係」が6．9ptと高く上回っている。国語は、5．6ptと市平均正答率を上回っており、学習指導要領の領域を見ると、「読むこと」の正答率が7pt高くなっている。社会は、市平均正答率を6．1pt上回っており、観点別でもそれぞれ5．3pt以上だった。理科は、市平均正答率は2．2pt上回り、、特に学習指導要領の領域『『生命』を柱とする領域」は4．4pt上回った。無解答率は低く、積極的に取り組むことができた。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし